

# 感性に触れ、人となりを知る



障がいのある方々の中には、言葉で想いを表現することが難しい方もいらっしゃいます。

法人の福祉サービスを利用されている岡部さんもその一人ですが、日々自身の芸術的感性を活かした作品を創作されています。

「コミュニケーションのあり方は言語だけではないことを岡部さんとお会いして再認識しました」と話すのは岡部さんが通う芸術教室の講師をされている渡辺先生。

今回は自己表現の多様性について考えます。





法人の福祉サービスを利用されている岡部さん



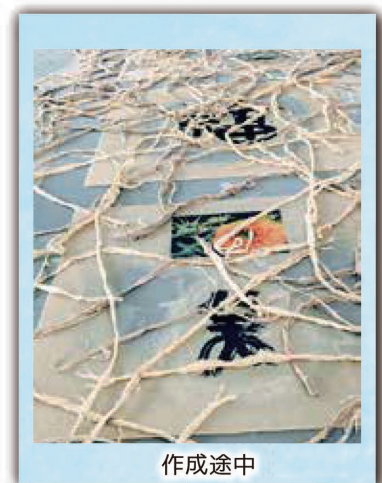
ものすごい集中力で制作に取り組まれます



色ねんどを使って



自分の世界観を表現されています！



作成途中

完成！！

先生から見て岡部さんは  
どんな方ですか？

在学されている時から校舎の庭ですつと蟻の動きを観察していたり、生物図鑑をたくさん読んでいたりと生物に関してすごく関心のある方でした。

基本的に言語でのお話は得意ではありませんでしたが、表情や端的な言葉での会話からとても素直な子だなという印象があります。

古代文字を線画で表現する作品を制作されていたのですが、取り掛かるとものすごい集中力で描いていきます。

人や動物の動きに高い関

芸術教室の講師  
渡辺先生



平成16年度より福井県嶺北特別支援学校に在籍し、これまで字形を捉えることが難しい生徒に、「古代文字」を題材として書表現の指導を行ってきた。現在、福井県社会福祉センターにて、「障がいのある方の書画教室」を開くとともに、作品を地域の文化交流スペース等に展示し文字文化、障がい者への理解等の啓発に努めている。

先生が大切にしている  
ことと今後の目標

心があるので、それらを表現されるのですが、とにかく描くスピードが速いんです。日頃から観察等しているからこそパツとイメージが出てくるんだなあと感心させられます。

また、特に印象に残っている出来事の中で、犬の干支をテーマに作品作りをする機会があったのですが、岡部さんが描いた犬の線画と古代文字字典に載っている犬の文字が全く一緒だったんです！ほんとに驚きましたし、改めて岡部さんの感性に感動しました。

私自身こういういった芸術作品に触れる中で、こういうことを伝えたいのかな？こんな気持ちで作っていたのかな？と考えることがすごく楽しいです。

そういう視点からみると芸術作品は一つのコミュニケーションツールだと思えますし、今後も芸術に関心のある地域の方との対話の機会を増やすために、作品展示の機会創出に努めていきたいです。



法人の取り組みのご紹介 ~えん展2021~

利用者の方の作品がアールブリュット展で賞を受賞されたことが、えん展始まりのきっかけです。

表彰式に参加されたご家族が感激されていた様子を拝見し、ぜひその作品を本格的な美術館で発表したいと考えました。昨年の開催で2回目となりましたが、かわる方々の笑顔が私たちの力になっています。

今後は、作家さんたちの作品の商品化を目指していきたいと思っています。

